

NPO 法人東京高次脳機能障害協議会（T K K）2025 年度事業報告

1. 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会

一般社団法人日本損害保険協会助成リハビリテーション講習会として、zoom ウェビナーによる「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」を2回開催した。

第1回 9月21日（日） 座長：渡邊 修氏

① 「ピアサポートを通じて見えてきた高次脳機能障害者の支援について」

島津 渡氏 障害者ピアサポート普及協会/

厚生労働省障害者ピアサポート研修事業に係る指導者養成研修講師/ファシリテータ/ピアサポーター

② 「地域における高次脳機能障害者支援のありかた」

和田 敏子氏

社福）世田谷ボランティア協会ケアセンターふらっと高次脳相談員

③ 「これからの高次脳機能障害者支援のありかた」

青木 重陽氏 神奈川リハビリテーション病院リハビリテーション部長

第2回 12月14日（日） 座長：渡邊 修氏

① 「介護者なきあとのお金と生活～相談事例とアドバイス」

渡部 伸氏 「親なきあと」相談室/渡部行政書士社労士事務所

② 「高次脳機能障害のある方への就労支援のありかた」

稲葉 健太郎氏 （社福）名古屋市総合リハビリテーション事業団

③ 「交通事故被害者への生活指導」

渡邊 修氏

（一社）TMG（戸田中央メディカルケアグループ）本部リハビリテーション医療特別顧問/東京慈恵会医科大学客員教授/東京都立大学客員教授

この「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」は2013年度から、コロナのためにやむなく中止にした2020年度以外、27回開催、活動の柱の一つとして行っている。9月21日の講義は、101講座となり、新たなスタートとなった。

★添付：アンケート集計

2. 高次脳機能障害者と家族のための「医療及び家族相談会」 2月6日現在

計画 6回 実施 4回 中止 2回 相談者数 7組

東京都心身障害者福祉センター 2回 相談者 3組

株式会社 言語生活サポートセンター 2回 4組

相談者は妻、兄弟姉妹、子ども

当事者は 40 歳台～80 歳台 平均 57 歳 男性 4 名 女性 2 名

相談内容

・手帳の取得・復職・行政サービス・退院、転院後の生活・当事者の高齢化による介護の変化・家族の疲弊・病院との対応・今後の見通しなど

3. 予算要望書

要望・提言を「予算要望書」にまとめ、都知事、東京都及び都議会の各政党・会派に提出

1. 介護保険サービスと障害福祉サービスの併用について、「多職種連携」として運用整備を求める（併用はケアマネジャーだけに頼らない方法として「多職種連携」での支援を提案）
2. 「失語症者向け意思疎通支援事業」について、都内全自治体において均等なサービス提供の実施を求める
3. 高次脳機能障害者の生活の場所の確保について、さらなる支援をお願いしたい。

（グループホーム、都営住宅、民間アパートなどの住まい探しに、行政からの援助を）

4. 精神保健福祉手帳 1 級で、「駐車禁止等除外票章」が交付されているが、表記を「駐車禁止除外車」等に変えていただきたい。



4. その他

- ・高次脳機能障害支援養成研修カリキュラム 基礎研修カリキュラムの中の「多職種連携・地域連携 家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動」の東京版作成
- ・メルマガ Vol.66～68 を発行（3 月に Vol.69 発行予定）
- ・加盟団体の交流会開催（8 月 31 日）
- ・高次脳機能障害者支援法成立時の衆議院厚生労働委員会、参議院厚生労働委員会及び本会議を傍聴
- ・高次脳機能障害友の会との交流、連携

以上